

3. 官庁訪問体験記



第3部 官庁訪問体験記

第3部では、経験しなければなかなか掴めない官庁訪問の実態をお伝えします。前半では、環境省の官庁訪問の基本的な情報を、後半では、春季と夏季の官庁訪問参加者に分かれて行われた座談会をまとめています。訪問前のイメージトレーニングにお役立てください。

なお、掲載している情報はあくまで令和4年度官庁訪問における経験に基づき、内定者の視点から作成されたものであり、来年度以降の官庁訪問のシステムや内容は以下と異なる可能性があります。

□ 官庁訪問（総合職）の基本情報と簡単な流れ

令和4年度の官庁訪問は春季と夏季の2度実施されました。環境省では、第1クールは完全オンライン、第2クール以降は原則対面での実施となりました。春季は理工系区分の既合格者を対象として6月上旬に全3クール、夏季は総合職試験最終合格発表後の6月下旬～7月上旬に全5クールで実施されました。最新の詳しいルールは人事院Webサイトでしっかり確認しましょう。

①官庁訪問前

環境省Webサイトから官庁訪問申込票等をダウンロードし、記入します。その後、指定された期間に上記資料を添付してメールを送り、官庁訪問の予約を行います。

②官庁訪問初日（第1クール）

オンライン環境を整え、メールの指示に従いルームに参加します。初日からしっかり面接を行うので、気持ちの準備をしていきましょう。

③官庁訪問期間中（第2クール以降）

第2クール以降は原則対面だったため、環境省へ。面接を1日に数回行います。面接だけでなく、グループディスカッションが行われる場合もあります。日によって形式が異なるので、臨機応変に対応しましょう。

④官庁訪問最終日（最終クール）

内々定！

□ 官庁訪問（総合職）の面接

面接回数は人によって異なりますが、複数回行われます。面接では官庁訪問申込票をもとに質問されたり、自己PRを求められたりします。加えて、説明会では聞けない具体的な業務内容を聞いたり、政策について議論したりすることによって、しっかりと環境省の業務内容を理解することができます。

時間は1回30分から1時間程度です。面接終了後から次の面接に呼ばれるまで時間がかかりますので、その間は面接の振り返りをしたり、ノートや申込票を見返したりして、次の面接に備えましょう。

また官庁訪問終了時刻は官庁によって異なりますが、環境省は比較的早い時間に終了します。

□ 官庁訪問（総合職）の服装

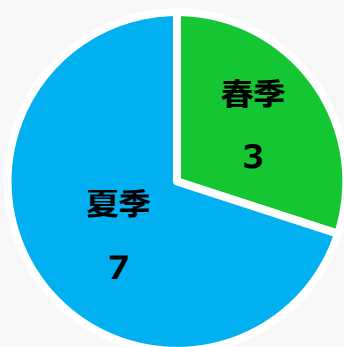
官庁訪問はクールビズ期間中に実施されることが多く、軽装が推奨されています。そのため、志望者も半袖シャツを着たり、ネクタイを外した状態で面接を受けることが可能です。もちろん、温度調節や気持ちの切り替えのため、ネクタイやジャケットを着用しても大丈夫です。



□ 官庁訪問（総合職）の基本データ

□ 官庁訪問時期

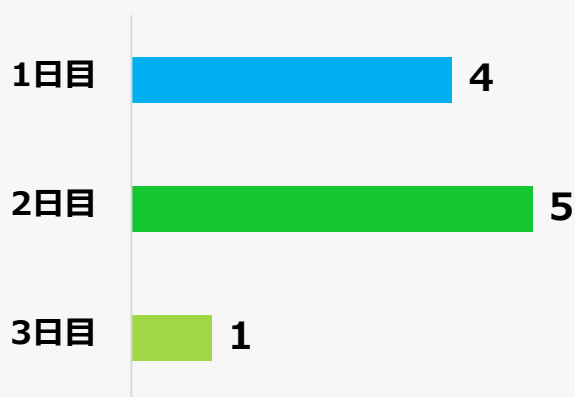
令和5年度入省内定者



官庁訪問は、例年通り春季と夏季の2度実施されました。

□ 環境省の初回訪問日

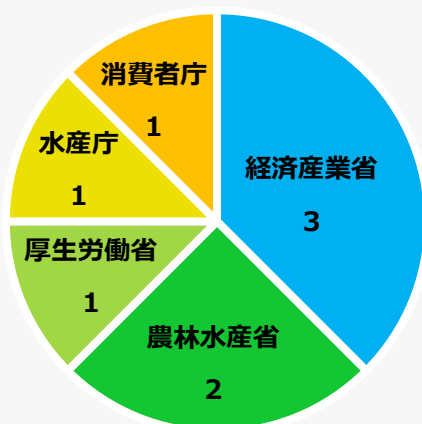
令和5年度入省内定者



令和5年度の内定者の訪問日です。
3日目に訪問した内定者もいました！

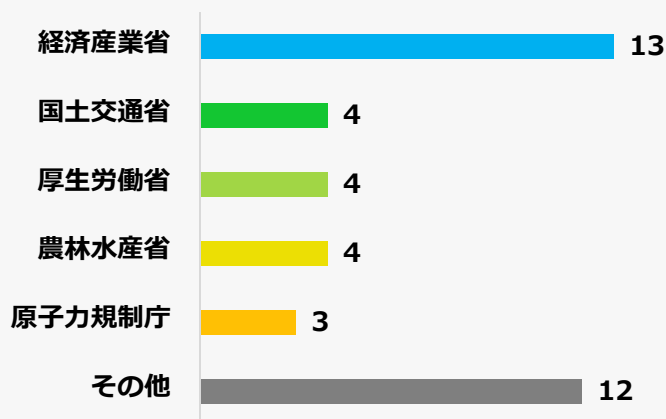
□ 併願した省庁

令和5年度入省内定者



※複数官庁の併願を含む。

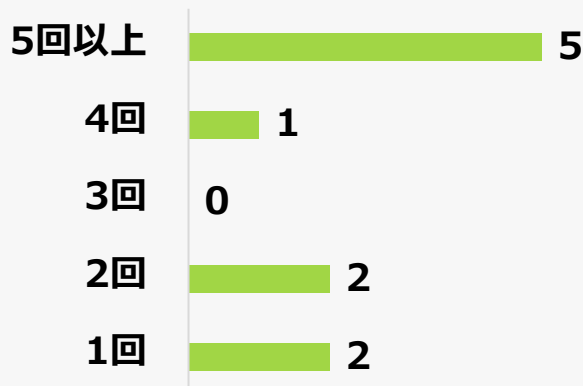
過去5年間の内定者
(平成31年～令和5年)



※その他：特許庁/水産庁/科学警察研究所など
※複数官庁の併願を含む。

□ 説明会参加回数

令和5年度入省内定者



令和5年度の内定者が環境省の説明会に参加した回数です。10人全員が一度は説明会に参加しており、8人は複数回参加していました！

□ 主な併願進路

政府系金融/電力会社/石油会社/建設コンサル/IT企業/非鉄金属系メーカー/独立行政法人（エネルギー系など）/食品メーカー/プラントエンジニアリング など

ここまでは、官庁訪問の概要や基本データについて記してきました。いかがだったでしょうか。

それでは次のページから座談会のパートになります！

令和5年度入省内定者は春季での官庁訪問参加者が3名、夏季参加者が7名でしたので、それぞれ春組、夏組として座談会を実施しました。発言の内容を要約し、編集を加えているため会話の流れが不自然な点があるかもしれませんがあらかじめご了承ください。また、座談会形式のためフランクな文体になっておりますがご容赦ください。



□ 官庁訪問参加者による座談会

ー春季官庁訪問参加者による座談会ー

座談会メンバー

水素：司会。広島県在住。併願先：経済産業省

Rstudio：東京都在住。併願先：民間企業

黒笛：東京都在住。併願先：経済産業省

【官庁訪問に向けて準備したことは？】

Rstudio：白書を読み込んだのが一番の対策だったと思う。環境白書・循環型白書・生物多様性白書の概要版ではなく本文を3年分読み込んだ。目的としては、**知識のインプット**や働き始めたときにどんな仕事をするのか、などの**将来像**を思い浮かべながら読んだ。

水素：参加できる説明会や座談会はすべて参加した。特にJOBトークでは、いただいた資料の中に気になったことをしっかりと書き留めておき、**官庁訪問前に読み返し、復習をした**。他にも、若手職員さんとの座談会では、少人数だからこそ聞けることをいろいろ質問した。

Rstudio：僕は、説明会は**若手職員さんとの座談会に一度参加したのみ**だった。今となっては**かなり後悔**していて、**自分の興味のある分野のJOBトークは参加しておけばよかった**と思う。

黒笛：僕もJOBトークには**予定が合えばすべて参加**していた。少人数座談会には参加できなかったけど、**OB・OG訪問や職場訪問を1月から3月までの間に何度か行った**。僕の興味のある分野に携わっている方のお話をみっちり伺うことが出来て、理解を深めることが出来た。

水素：僕も一度だけ職場訪問を行った。僕の場合は「あと一週間で締め切ります」というメールを見て、急いで申し込んだ（笑）。

自分の興味のある政策についてお話を聞くことが出来たのはもちろん、**その方が過去担当された政策についても聞くことが出来て、視野が広がった**と思う。

黒笛：JOBトークの復習として、学んだことや考えたことを、**マイページの感想を答えるところでびっちり書いていた**。さらに、JOBトークや職場訪問で得られた知見や感じたことを**官庁訪問申込票に落とし込む**ことに注力した。官庁訪問の面接の中で聞かれやすいように戦略を立てて、書き上げた。

【官庁訪問申込票はどんな感じで書いた？】

水素 : どの項目もかなり気合を入れて書いた（笑）。環境省への関心は20行くらい書いていて、志望動機と実現したいことの比率は2対1くらい書いた。熱意を伝えるために、かなり具体的なところまで書いていた。

Rstudio : 僕も同じくらいかなあ。比率は1対1くらいで、長すぎて読みにくくならないように気を付けていて、そのギリギリのラインだと思って、1000字くらいにとどめた。

黒笛 : 僕はそんなに書いていなくて、半分くらいの10行くらいだったと思う。最初の原稿はかなり長かったんだけど、長いと読んでもらえないと思って、ほんとに自分が伝えたいところだけピックアップした。内容としては、かなり抽象度を持たせていて、質問の中で具体的な議論へと導くようにしていた。

Rstudio : どちらのパターンも選考を突破しているから、かなりの熱量をもってたくさん書いても、濃縮してシンプルに書いても、しっかりと読んで選考してくれていたということだね。

水素 : 学生時代の経験の項目はどれくらい書いた？僕はここも20行くらい書いて、熱意を見せたと思う（笑）。

黒笛 : ここも、そんなには書いていない。むしろ、今までの組織の中での立ち回りを社会人としてどう役に立てるのか、といった形で戦略的に書くように工夫していた。

水素 : 他に何か印象に残っていることはある？

黒笛 : 官庁訪問申込票に書いていることは最後の最後まで聞かれた。環境省の政策の理解というよりは、自分の人となりを何回も聞かれた。面接の中では、人となりのユニークさを評価されたのかもしれないと感じた。

Rstudio : 環境問題に取り組みたいのか、自分の研究の専門分野に関する仕事をしたいのか、ずっと確認されていた感じがあった。専門分野との兼ね合いは結構聞かれるのかも。

黒笛 : わかる。僕も何度も確認された。

水素 : 僕も最終面接で、君の研究分野的には他省庁の方が合ってるんじゃないのか、と確認された。「環境」という軸の下で成し遂げたいことや取り組みたいことが明確になっているのか、という根本の部分を問われていると感じた。

【オンライン面接の良かったところ・悪かったところは？】

Rstudio : 面接の間に散歩やご飯休憩を取れたところだと思う。30分くらい休憩をもらえたりしたから、家の近くを散歩してリフレッシュできたのはすごくよかった。

水素 : オンライン面接の待合室だと、カメラ・マイクオフなので、自分のリズムでしっかり休めたのはすごくよかった。

黒笛 : 僕も自分のペースで休めたのはよかった。面接終わってカメラをオフにしたら、すぐにベットに飛び込んでた（笑）。でも外に散歩に行ったりはしなかった。

前日までに準備は万全に整えていたので、当日はコンディションを整えることに専念して、しっかり休んでた。

Rstudio : 逆に悪かったところとしては、会話のタイミングが掴みにくかった。同時に話し始めたりしてしまったことがあった。でも、そんなに大きなマイナスポイントではなくて、良かったところの方が圧倒的に多かったと思う。

水素 : オンライン面接でも雰囲気とかは伝わってきた？人や働く様子とか。

Rstudio : 職員さんの雰囲気はちゃんと伝わってきたけど、オフィスの雰囲気とかはつかめなかった。

水素 : 僕は官庁訪問と言えば、待合室での会話も醍醐味だと思っていたけど、オンライン面接だとそれが出来なかった。その点是对面面接の方が良いのかなと思った。

【対面面接の良かったところ・悪かったところは？】

Rstudio : 悪かったところは全くなかった。良かったところは就職後に働くオフィスの雰囲気を鮮明にイメージできた。

水素 : 対面面接の悪かったところというよりは、移動がかなりつらかった。第1クール2日目終了後、その日のうちに新幹線で東京へ移動した。次の日は朝から面接だったが、東京のホテル到着は23時くらいだった。

黒笛 : 確かに地方出身者にとってはつらいシステムだね。対面面接は良いところばかりだから参加したいところだけど、地方出身者から見るとオンラインから対面への切り替えが短期間だとかなり厳しいね。

【見られていた・評価されていたと感じるところは？】

- 水素** : 志望動機を話した際に、話し方が分かりやすいと言われたことがあった。一呼吸考えて分かりやすいように話すことは重要かもしれない。
- Rstudio** : **コミュニケーション能力はよく見られていた**と思う。聞かれたことに對して、きちんと答えられているか、はぐらかしたり、答えがずれていないかは見られていたとは思ふ。
- 黒笛** : 僕もコミュニケーション能力は重要だと思う。原課訪問では基本的には職員さんからの説明があつて、そのあとに僕から質問したりディスカッションしたりしていた。**初めの説明の部分では傾聴力というか、しっかりと聞く姿勢を見せることは重要**だと思った。
- Rstudio** : 物事を簡潔にまとめて伝える力は最低限必要な力なのかもしれないね。**土台として簡潔にまとめて伝える力があつて、その上に、問題解決のための考える力が必要**だと感じた。
- 水素** : **全体を通しては話を聞いて、原課訪問前後の考え方の変化や成長を見せることが重要**ってことだね。
- 黒笛** : そうだと思う。僕は**原課訪問で何を学んできたのかを伝えるときに話すフォーマットを作っていた**。そのフォーマットに原課訪問前後での考え方の変化などを当てはめて話していたんだけど、「**今の2分で話してくれたことで、原課で何を聞いてきたかすべて伝わった**」って言われたときは、話し方が評価されたんだと感じた。
- 水素** : 僕は**いろんな人の立場を考えられるかも重要**だと感じた。具体的には、「この立場の人はこういう疑問を持つんじゃないのか」といった形で、疑問を前提にして考えたところは評価されていた気がする。
- Rstudio** : 確かにそれはあつたかも。今までは土地や技術を開発する側の立場で考えることが多かったけど、**官庁訪問を通していろんなステークホルダーの立場に立って政策を考えている重要さを感じた**。いろんな人の立場から考えつつ、自分の考えをブラッシュアップすることが重要だと思う。

【失敗したなと感じることは？】

Rstudio : 官庁訪問のプロセスの最後の方でフィードバックをもらい、その中で自分の良くないところをたくさん指摘された。特に「**原課訪問の中で感じたことをしっかりと自分の中に落とし込んで考えるといいよ**」というアドバイスを自分で気づけなかったのは失敗だと思った。

黒笛 : 僕は普段からサークル活動とかを通して、いろんな人と話すのが好きなタイプなんだけど、話すのが苦手なタイプの人っていると認識してた。その**苦手なタイプ寄りの面接官と、苦手な話題で当たってしまって大変だった**。

水素 : 大変だったね。どう備える必要があると思う？

黒笛 : 普段からどんな人ともコミュニケーションを取れるように心がけておいて、**もし苦手なタイプの方がいたとしても、話せるように心の準備だけでもしておいてほしい**と思う。僕はちょっと緊張しちゃって大変だった。

水素 : 説明会には参加してたけど、あまり知識は持たずに官庁訪問に挑んだのはよくなかったと思う。逆質問の時に、いつも必死でいろんな人の立場に立って浮かぶ疑問をぶつけてたんだけど、ある程度の前提知識を持っていた方が良かったと思う。

Rstudio : 確かに、柔軟性と最低限の知識はあったほうがいいかもしれないね。僕は逆に普段研究している話題に引き込んで、自分の持っている引き出しから話を広げていた。研究の話に頑張って引き込もうと必死だったのはいい思い出（笑）。

【官庁訪問全体の印象はどうだった？】

Rstudio : 職員さんも学生側もピリピリしていた。

黒笛 : 僕の場合は逆に、**環境省の官庁訪問はウェルカムな感じだった**。第2クールは対面だったけど、**待合室で若手職員さんと雑談できるくらい和やかな雰囲気だった**。終わる時間も早かったので、学生想いの本当にいい省庁だと感じました！！

Rstudio : 職員さんから頭の中にTo Doリストを思い浮かべているような雰囲気が感じ取れた。忙しそうな雰囲気故のピリピリだったのかもしれない。

水素 : 官庁訪問の中身で言うと、面接というよりはディスカッションの場という感じが強かった。**政策について議論する場がほとんどで、初めて知ることたくさんあって、視野が広がり、すごく楽しい経験をさせてもらったと思いました！！**

【最後に一言！】

Rstudio : なるべく早めから動いて、企業や公務員問わず調べるべきこと、学ぶべきことはすべてやりつくしてから、自分に最適な選択肢を選んでください。視野を広くして、頑張ってください！

水素 : 就活は自分を見つめ直す減多とない機会なので、しっかりと自己分析をしてみてください。その中で、自分のやりたいことや伝えたいことを見つけ出し、盛らずにありのままにぶつけてみてください！

官庁訪問はお堅いイメージがあるかもしれませんが、自分のいいところを引き出すための議論の場だと思うので、ぜひチャレンジしてみてください！

黒笛 : 学生自身のことを伝える場でもありながら、省庁とのマッチングの場でもあるので、関わってくださる職員さんの思いもくみ取りながら参加することで、いいコミュニケーションを取れると思います。その中で、自分の成長につながる経験もあると思います。頑張ってください！



一夏季官庁訪問参加者による座談会一

座談会メンバー

- たねまる** : 司会。神奈川在住。併願先：民間企業
サウナー : 埼玉在住。併願先：厚生労働省、東京都
ベル : 東京在住。併願先：経済産業省
御朱印 : 京都在住。併願先：農林水産省、消費者庁
カスミソウ : 北海道在住。併願先：農林水産省

【官庁訪問に向けて準備したことは？】

- 御朱印** : 説明会に何度か参加して、そこでもらったパンフレットを読んでいた。**民間企業も受けていたので、そこでの面接の経験をもとに民間企業のエントリーシートを伝わりやすいように直前に修正して官庁訪問申込票を作成した。**学生時代の経験や研究内容などが伝わりやすいように心がけていた。
- ベル** : 環境省の説明会はほとんどすべて参加していて、そこでもらった資料を復習していた。復習の際は自分の意見をまとめて、自分だったらどういう政策を考えるかというところを聞かれたら答えられるようにしていた。まとめつつ一緒に問題の背景を理解するよう心掛けていた。
- たねまる** : 私も**業務説明会にはほとんど参加していて、そこで見聞きしたことや思ったことをノートにまとめていた。**官庁訪問前にはそのノートが良い復習材料になった。特に興味のある政策分野については自分の研究内容と合わせて自分なりの考えをまとめていた。
- また官庁訪問中も伺ったことをなるべくノートにまとめて、**待ち時間に復習して頭を整理していた。**
- サウナー** : 僕は**白書を購入して読み込んだ。**説明会に全然参加していなくて、合同説明会（一次試験後）に参加したのが初めてだった。**全然知識がなかった**ので、**白書や重点政策を読んで一通りの政策は語れるようにして官庁訪問に挑んだ。**
- たねまる** : 白書はどういう風に活用した？パラパラと全体的に見たのか、興味のある政策を重点的に読んだのかでいうとどんな感じ？
- サウナー** : **最初は自分の興味のある環境保健系の政策を重点的にいろいろ読んだ。**その後官庁訪問のときに他の分野も勉強した方が良いよとされたので、官庁訪問中にほかの分野も結構読み込んで対策した。

カスミソウ：私は**環境省と他省庁の共通点と相違点を明確にした**。そのうえで自分のやりたいことと、なぜ環境省なのかをうまく説明できるように整理した。

たねまる：どのように他省庁との違いを明確にした？

カスミソウ：他省庁の説明会で、採用担当の人に環境省と迷っているけど違いはどこだと思いますか？などと直球で聞いていた。それを自分の言葉や経験で言い換えていた。環境省の職員さんにも同じように聞いていた。

あとはOB・OG訪問を通して業務内容だけではなく仕事への捉え方も見るようにしていた。OB・OG訪問は2度くらい行った。

ベル：私は自己分析では、**なんで環境問題に興味を持ったのか、自分のストーリーを整理しておいて、どうして今の学科を選んだのかなども含めて聞かれたら答えられるように**、自分の中に落とし込んでいた。そうすることで自分の頭の中が整理されて面接でどこをつつかれても答えられた。

他省庁も環境政策が共通している部分がたくさんあったのでどちらの説明会も勉強になった。

たねまる：説明会で質問はした？

カスミソウ：私はけっこう質問した。毎回1回は質問しようとしたけど、経済のことは難しくて質問できなかった。自分の研究分野に近いときなどは突っ込んで質問しようとしてた。

たねまる：私はいわゆる「逆質問」が苦手な自覚があったので、JOBトークのときはなるべく毎回質問するようにしていた。それが良いトレーニングになって官庁訪問のときは質問を考えることができた。

【官庁訪問申込票はどんな感じで書いた？】

ベル：環境省への関心は20行くらい書いた。志望動機と実現したいことの比率は2対1くらい。

たねまる：私も環境省への関心は20行くらいだった。自分の環境省への思いが大きくなった経緯が半分くらいと、環境省でやりたいことが半分くらいだった。

カスミソウ：私も総量は同じですが、志望動機が全体の3/4くらいだった。

たねまる：熱く語ったんだね（笑）。

カスミソウ：はい（笑）。実現したいことでは、関心のある分野について詳しく書き、それで面接官の方に質問してもらった。

【官庁訪問で他に思い出はある？】

- サウナー** : 第一クールがオンラインで、原課面接を2回した後、4～5時間待った。いつ呼ばれるかわからなかったのずっとトイレに行けなかったのはつらかった・・・。
- たねまる** : 見込みの時間くらいは教えてほしいよね。環境省は比較的早く帰れるって本当だった？
- ベル** : 他省庁の方が早くて、6時くらいには帰れた。
- カスミソウ** : 私は他省庁で9時くらいまで残った。それと比較すると早かった。
- たねまる** : 私は順番の関係もあって第2クールのときは20時過ぎくらい。次の面接に進めるっていう電話連絡が帰りの電車の中で来てしまって、電話が取れなくて焦った。
- サウナー** : **環境省が比較的早く帰れるのは本当なんだね。**
- 御朱印** : 最終面接で、面接が久々すぎて自己紹介のときに自分の学科の名前をド忘れした（笑）。一番焦ったけど何とか絞り出せた（笑）。
- カスミソウ** : 一緒に官庁訪問してた人と**すぐ仲良くなった**。お昼ぐらいから笑い声が飛び交ってたのが良い思い出。**みんな気が合うんだなと思った**。中には、すごく仲良くなって初日からため口だった人もいた（笑）。
- ベル** : **私も待合室でみんな仲良くて驚いた**。第3クールで初めて初日に行ったらみんなすごく仲良くて、いい雰囲気だけど戸惑った。
- たねまる** : たしかに、**待合室の雰囲気は柔らかかった**。
- ただ、おしゃべりに興じるとその分ノートなどにまとめたり振り返ったりする時間が減るし、結構まじめに振り返りをしている人が周りに多かったので、話しかけるのも少し気を遣った・・・。
- カスミソウ** : 私は面接当日、突然カメラが普段通り動かなくなってしまって、ずっと画面がカクカクだった。面接ごとに、カメラの調子が悪い旨を伝えてから面接に臨んだ。結局その日は一日中カクカクのままで頑張った。当日までに**回線や、カメラなどのデバイスの確認を行った方がいいと思う**。ただ、実際は音さえつながってれば何とかなったので、落ち着いて面接に臨んでほしい。

【オンライン面接の良かったところ・悪かったところは？】

サウナー : 良かったところは**申込票を手元における安心感があったこと**。壁に貼り付けてカンペを読むことも出来た。悪かった点は待ち時間が分からないところ。

ベル : 良かった点は、**私の出身の中国地方の環境事務所の方とも面接できたのがオンラインならではのよかった**。ただ、オンラインでは待合室でほかの学生とコミュニケーションを取りづらく、対面の方が環境省に行ってる！っていうモチベーションになった。

たねまる : 休み時間はどうしてた？

ベル : **ベットでリラックスしてた（笑）**。自分の部屋から接続していたので、自分のペースで休憩できた。

たねまる : 私もベッドにダイブしてた。いつ呼ばれるかわからないのでトイレに行ったり水分を取りに行ったりするにもドキドキした。

【対面面接の良かったところ・悪かったところは？】

たねまる : 良かったところは**対面の方が職員の方とのコミュニケーションがとりやすかった**。話が盛り上がったし、環境政策に対する熱意も対面の方が直に伝わってきた。

ベル : 悪かったところは対面だと**マスク越しなので、普段通りの話し方だと伝わりにくかったところ**。感情が伝わるようにオーバー目に話すように心がけていた。

カスミソウ : **職場の様子を実際に見れたのが良かったところ**。カフェスペースがあるのを目の当たりにして、働く場所のイメージが湧いた。あと、**テレワークが進んでいると感じた**。

たねまる : どういうところから感じ取れた？

カスミソウ : 職員さんから聞いた話なんだけど、昔は机の上にたくさん資料があったらしい。**今はフリーアドレスが進み、空いている座席もあって、テレワークが進んでいる様子が見て取れた**。

たねまる : 対面の日の昼食はどうしてた？私はストレスで食べられなくて、ゼリー飲料とか流動食にしてた・・・。

カスミソウ : **持参している人が多かったイメージ**。私もストレスで全然食べられなかったので、小さいおにぎりを自作して、持参して食べた。

サウナー : **地下の食堂が結構おいしかった**。他の内定者でカレー食べてた人がいた。

【地方からの官庁訪問参加の印象は？】

- 御朱印** : 僕は京都から東京へ移動して、東京では自分で予約した宿に泊まった。官庁訪問で困ったことは、**長距離移動による疲労や、慣れない土地での不安感**が大きいと思う。また、僕は3省庁の官庁訪問に参加したので、**連日の面接の疲れや夏の暑さでバテ気味**だった。
- たねまる** : やはり、地方からの官庁訪問は大変だね。どうやって乗り越えた？
- 御朱印** : 僕は**宿泊先の大浴場で大きな湯船に浸かって疲れをとっていた**。個人的には大浴場付きの宿がおすすめ！大浴場に限らないけど、何かリフレッシュできるものが宿泊先やその近くにあればいいと思う。
- あと**宿泊先にコインランドリー**があって、**官庁訪問の合間の土日に洗濯**できてとても助かった。
- カスミソウ** : 私は北海道から飛行機で移動した。実家が神奈川だから、宿代はかからなかった。官庁訪問ではないけど、地方在住だと対面の説明会に参加するのが難しくて、つらかった。
- たねまる** : 東京の鉄道や道路はかなり複雑だと思うけど大丈夫だった？
- 御朱印** : 僕はかなり不安だった。訪問前日までに時間に余裕があれば、**宿泊先から官庁までのルートを実際に歩いて所要時間を確認**しておくと思う。実際に歩いておけば当日迷うことも無いのでオススメ。

【困ったことは何かあった？】

- サウナー** : ある面接官から「**自己採点をして**」と言われたのは困った。何個か環境省で大切な力のような項目を示されて、それを基準に採点してと言われた。
- カスミソウ** : 私も聞かれて困った。みんなも聞かれたと思うけど、何点つけたのか気になる。
- ベル** : 私は満点と答えた。そしたらめっちゃ笑われた（笑）。
- たねまる** : すごい（笑）。私は80点と答えた。
- カスミソウ** : 私もそれくらいだったと思う。
- サウナー** : 僕は60点と答えた。大学の単位って60点がギリギリ合格点だから、合格点ギリギリという意味で60点とした。
- 御朱印** : 僕も60点。示された項目の中で一個全然だめな項目があったので、その分減点してその点数にした。
- サウナー** : **なぜその点数になるのか、明確に説明できるかが重要だ**と思った。

【見られていた・評価されていたと感じる点は？】

- ベル** : 他省庁では政策の中身を議論したり、具体的に自分のやりたいことを官庁訪問を通してメンターと一緒に作り上げていった印象だった。それに対して**環境省は人を見ていた感じがした。何をやりたいのか、意欲を見てくれていた**と思う。
- たねまる** : 確かに、あなたはどうかの？あなたならどうする？のような**人物的なところを見られていた**と思う。
- カスミソウ** : 私は**コミュニケーション力を見られていた**と思う。面接官によって面接の形態が違った。政策の議論が主である人や逆質問が主である人など、さまざまだったので、面接官によって、私生活のことを絡めて話したり、政策のことを重点的に話したり、たくさん質問したりと柔軟に対応できるように心がけていた。あとは**質問力や、いかに環境問題を自分事としてとらえられているかをアピール**することが大切だと思う。
- たねまる** : 私は官庁訪問を通して、**成長しているかどうかを見られていた**気がした。出口面接では今日何が印象に残ったかとか、その日で**自分の考えが変わったか、何が意外だったか**を話してと言われた。自分のその日の成長をまとめて話す力も見られていた感じがした。面接の合間にノートにまとめてたのが生きたと思う。

【官庁訪問全体の印象はどうだった？】

- 御朱印** : **面接の形態が多様だった**。基本的には業務説明をしてもらって、質問や逆質問というパターンだったけど、オール逆質問のときもあったり、志望動機をブラッシュアップしてくれるだけで終わる人もいた。**全体的に比較的和やかな感じでいろんな人がいるんだな**と感じたし、**多様性を標榜している印象**を持った。
- カスミソウ** : 一人一人の面接のスタイルが違うので、**自由が認められている**んだろうなと感じられた。一人一人の裁量が大きいのかな？**マニュアル化してない感じなのも印象的**だった！
- ベル** : 待合室の職員さん、面接の職員さんみんなが優しかった印象がある。他省庁ではめっちゃ詰められたけど、**環境省は本当に人物本位で、優しかった**。
- たねまる** : 堅苦しい感じがあるのかなと思ったけど、実際はディスカッションっぽくて、自分の意見をぶつけたら、それに対して職員さん自身の意見を返してくれるのが印象的だった。政策について踏み込んで話せたときや**職員さんの熱い思いに触れられたときは、テンションが上がった**！

【最後に一言！】

たねまる : 官庁訪問に限らず、就職活動ではとにかく視野を広く持つことが大切だと思う。あらゆる可能性を排除せずに、いろいろ見たり聞いたりして、自分のやりたいことに合ったところを選べるといいと思う。その結果が環境省だったらうれしいです！！

ベル : 官庁訪問する上で、政策を勉強したり、自己分析を徹底する、といったことが大事だと思われるかもしれないけれど、そこはバランスが重要だと思う。やりたいこととかをガチガチに固めるのも違うし、全く準備しないのも違う。出来る限り事前に調べておきつつも、職員さんのお話を聞いて変わっていくのもある意味大切かなと思った。職員さんのお話に興味を持っていければよいかな。適度に緊張しつつ、頑張るのが良いかなと思います。

サウナー : 僕は正直官庁訪問前までは、環境省のことはあまり知らなかったけど、官庁訪問を通していろんな職員さんと話していく中で、自分が環境省でやりたいことが段々明確になった。なので、臆せず自分の想いをしっかりとぶつけて、そこから職員の方から返ってきて得られたことを自分のものにしていくのが一番大切だと思います！

カスミソウ : 省庁を選ぶうえで、業務内容とかもちろん重要だけど、働いている人の雰囲気も基準のひとつにすると、将来働く上でギャップを少なくできるので、説明会等でそういったところを明確にしていけるとよいと思います。

御朱印 : 僕は環境省に内定をもらったけど、研究分野に近いわけでもなかった。官庁訪問や就職活動全体を通して、研究内容や学部学科を気にせず、興味あることをどんどん企業や省庁にアタックしてみて、やってみるといいと思う。アタックしてみて合わないこともあるので、そこはあまり落ち込まずに、きっと拾ってくれるところがあるので、頑張ってみてください！

内定者の官庁訪問対策や訪問中の実体験について、座談会形式でお伝えしました。いかがだったでしょうか。

人によって対策方法や印象に残ったことは様々でしたが、実際に経験しなければわからない官庁訪問の実態を少しでも知っていただけたなら、幸いです。

志望者の皆様の官庁訪問が、実りあるものになることを祈っています！

□ おわりに

ここまで読んでいただきありがとうございます。いかがだったでしょうか。

本書は構成から内容まで、すべて内定者が主体となって作成しております。その分、一人一人のプロフィールや生の声に焦点を当て、就活生にとって身近な就活本になるよう努めました。私たちがどのように試験対策に取り組み、試行錯誤し、どのような考えをもって、環境省を目指したのか、皆さんが環境省を将来の選択肢として考える際に少しでも役立てていただけたらと思っております。

この「内定者の声」は次に環境省を目指す皆さんへ我々内定者からのバトンです。私たちとともに、環境問題の最前線に立って日本、そして世界の未来を作っていきますか？ 内定者一同、皆さんをお待ちしています！

2022年12月 環境省総合職理工系内定者一同

